

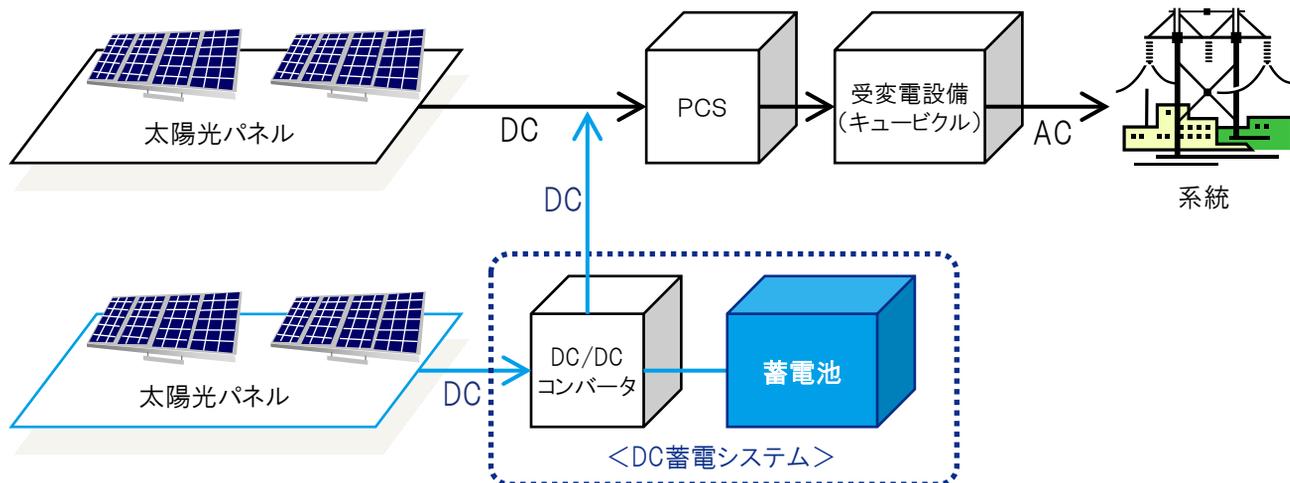
太陽光発電所の蓄電池システム導入事例

● 導入事例

茨城県行方(なめがた)市の太陽光発電所(約1.8MW)で、売電量の底上げを目的に蓄電池システムを導入しました。

パワーコンディショナー能力を越えて発電した電力を蓄電池へ蓄電し、夜間に放電(売電)することで、従来無駄にしていた余剰電力を有効活用できるシステムとなっています。

● システムイメージ



● 太陽光発電システムに蓄電池システムの導入

昨今の太陽光発電は、FIT(固定価格買取)制度の見直しによる売電価格の低下や、電力会社による出力抑制など取り巻く環境が変化しています。一方で、太陽光発電システムおよび蓄電池システムの設置コストは減少傾向にあり、太陽光発電システムで作る電力単価は、電力会社の単価と対抗し得る価格まで低下しています。

当社では太陽光発電システムに蓄電池システムを導入し、太陽光で発電した不安定な電力の安定的な利用を推進します。

● メリット

- ① 停電時や災害時の非常用電源として利用できる → 事業継続(BCP)や避難拠点として地域に貢献
- ② デマンドレスポンスによってピーク時に電力量をカットできる → 電量料金の削減
- ③ 太陽光発電システムと連携させることで、必要な電力をまかなうことができる → 電力の自給自足

太陽光発電システム+蓄電池システムで、自家消費、分散型電源として利用など、お客様の目的やニーズにあわせて最適なシステムを提案します。

